

令和6年度 経営改革プラン

団体名	神戸航空貨物ターミナル株式会社
-----	-----------------

設立年月日	平成4年4月28日	
団体の設立目的・沿革	神戸航空貨物ターミナル株式会社は、平成6年9月4日の関西国際空港の開港によって訪れた本格的な「空の時代」に対応して、西日本一円の航空貨物の物流拠点としての、荷さばき、通関、保管及び関西国際空港への集中輸送等の機能を備えた「神戸航空貨物ターミナル」を整備運営することにより、神戸港を海空陸の総合的な物流ネットワークの結節点として、さらに発展させることを目的として設立された。	
団体の主な事業内容	事業名	所管局
	関空への集中輸送業務（国際貨物事業）	自主事業
	施設の賃貸借（国際貨物事業、国内貨物等事業）	自主事業
	施設（神戸航空貨物ターミナル）の管理	港湾局経営課、神戸港管理事務所
代表者	代表取締役社長 東野 展也	

役職員数 (令和5年7月時点)	取締役		監査役		職員		合計
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	有期	無期	
団体固有職員	-	-	-	-		1	1
神戸市派遣職員	-	1	-	-		-	1
神戸市OB職員	2	1	-	-	1		4
その他	-	6	-	2	4	-	12
合計	2	8	-	2	5	1	18

財務状況（単位：百万円）	令和4年度	令和3年度	差引
経常損益	34	32	2
税引後当期純利益	23	22	1
販売費及び一般管理費	53	64	▲ 11
流動資産	483	565	▲ 82
流動負債	62	133	▲ 71
長期借入金（固定負債）	0	0	0
期末現金預金残高	373	436	▲ 63

■中長期的なミッション（神戸市行財政改革方針2025期間中のミッション）

ミッション①	航空貨物需要に対する取り組みの一層強化
ミッション②	安定した経営基盤の確立と事業運営
ミッション③	中長期的な人事戦略による活力ある組織づくり

■短期的なミッション（令和6年度のミッション）

ミッション①	団体のあり方の方向性
ミッション②	収益構造の改善及び貨物取扱量の拡大

■経営指標（令和4年度）

経営指標				令和3年度	令和4年度	前年度比増減	令和3年度実績 中小企業実態基本調査 による業種別平均値
人的 パフ オー マン ス	職員 一人 あたり 純利益	純利益/職員数	職員1名あたりが、どの程度の利益を上げているか。(百万円)	3.127	2.872	▲0.3ポイント	-6.181
	経常費用 人件費比率	人件費/経常費用×100%	経常費用に占める人件費の割合がどの程度あるか。	11.19%	10.21%	▲1.0ポイント	16.38%
財政 的 パフ オー マン ス	総資本 経常利益率	経常利益/総資本×100%	経常的な収益性はどの程度見込まれるか。	4.10%	4.61%	0.5ポイント	2.61%
	流動資産 回転率	売上高/流動資産×100%	流動的な資金が効率的に運用されているか。	84.29%	87.62%	3.3ポイント	79.63%
財 政 安 定 性	流動比率	流動資産/流動負債×100%	短期的な資金をどの程度確保できているか。	423.82%	776.28%	352.5ポイント	190.67%
	自己資本 比率	自己資本/総資本×100%	団体固有の資本がどの程度あるか。	61.69%	69.01%	7.3ポイント	41.84%
持 続 性	自己資本当 期純利益率 (ROE)	当期純利益/純資産×100%	資本を効率的に運用しているか。	4.55%	4.56%	0.0ポイント	-13.95%
	純資産 増加率	(当期純資産-前期純資産) /当期純資産×100%	純資産が持続的に増加しているか。	4.55%	4.56%	0.0ポイント	6.22%

## ■ ミッション工程表

ミッション名		令和6年度						令和7年度～					
中長期的ミッション													
①	航空貨物需要に対する取り組みの一層強化	貨物取扱量3,040トン/年						貨物取扱量3,240トン/年					
②	安定した経営基盤の確立と事業運営	・航空貨物輸送事業の安定した経営基盤の確立 ・賃貸料収入に依存した収支構造の改善						・安定的な航空貨物ターミナルの運営 ・安定した経営基盤の確立					
③	中長期的な人事戦略による活力ある組織づくり	・外部人材の活用検討 ・組織の活性化						事業執行体制・組織の充実					
ミッション名		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
短期的ミッション													
①	団体のあり方の方向性	団体のあり方の方向性の検討・方向性に沿った施策の展開											
②	収益構造の改善及び貨物取扱量の拡大	集中輸送の収支改善策の検討・実施、貨物取扱量の確保による収益構造の改善											

## ■ ミッションを踏まえた団体目標

目標及び実現方法	団体目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・貨物取扱量については、早期に新型コロナウイルス禍前（3,200トン/年）の水準に戻す。</li> <li>・貨物取扱量の確保と集中輸送の効率化に加え、国際貨物取扱事業者の誘致に努め、国際貨物事業収支の黒字化を目指す。</li> <li>・積極的な外部人材の活用により組織の活性化を図るとともに、安定した経営基盤を確立する。</li> </ul>
		・社会経済情勢の変化を踏まえ、団体のあり方について検討を行い、方向性を示す。
		・貨物取扱量増加に向けての新規顧客の誘致
		・集中輸送の収支の改善
		・民間人材活用策の検討

## ■ 市支援策の活用状況（令和5年度）

<input checked="" type="checkbox"/> 外郭団体共通内部通報窓口	<input type="checkbox"/> 経営懇談会	<input checked="" type="checkbox"/> 外郭団体職員向け研修	<input type="checkbox"/> 民間代替性調査
<input type="checkbox"/> 専門家紹介制度	<input type="checkbox"/> 経営診断	<input type="checkbox"/> 企業統治状況調査	